

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒  
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

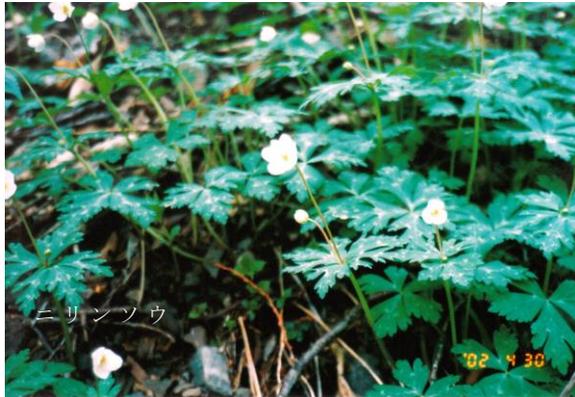
両神山ーニリンソウの花盛りー



四阿屋山からの両神山

J R 高崎線の車窓から西の方を見ると、鋸の歯を立てたような岩峰が見える。深田久弥が名著「日本百名山」の中で、怪異な岩の砦と表現した奥秩父・両神山（1723m）である。

5月上旬、その両神山に登った。登山口・日向大谷の両神山荘に車を置き、10時登山開始。山腹を巻いてほの暗い林の中を進むと、道端に小さな石碑や石仏が次々と姿を連ねる。さすが昔ながらの信仰の山である。七滝沢を越えた頃から、沢の中を右に左に渡り返しながら登る。沢を埋める若緑に全身が染まる。間もな



ニリンソウ

く足元にニリンソウがかれんな花を見せ始めた。登るにつれて増え、やがて沢いっぱいニリンソウの花の世界となった。



清滝小屋

ニリンソウの大群生を堪能した後、沢を離れ、

ササの斜面の急登を一踏ん張りして12時、ようやく清滝小屋に着いた。ログハウス風のなかなかしゃれた建物である。時は5月、地元の山岳会の心尽くしか、鯉幟が風にはためいていた。

30分の昼食休憩の後、小屋の裏手から産泰尾根の急登が始まる。クサリやハシゴを使い、約1時間で両神社奥社に達すると、後は主稜線の吊尾根が山頂まで

続いている。小さな登り下りを繰り返し、最後にやせた岩稜をクサリやロープにすがって登り14時、両神山山頂に到着した。



両神山頂

小さな石祠と二等三角点のある両神山山頂の剣ヶ峰は狭く、数人立つのがやっとだが、ここからの360度の眺望は素晴らしい。南に奥秩父の彼方に富士山、西に御座山の向こうに八ヶ岳、東は関東平野の広がり、北には日光の連山の左に谷川岳がかすんで見えた。これらの眺望にも増して、山頂付近を埋め尽くすヤシオツツジがまた、今が見頃だった。青空に映える艶やかなピンク色に魅せられ、しばし時を忘れて頂上を占領してしまった。帰りも登りと同じコースを下山。両神山荘帰着は夕方の5時半となった。



産泰尾根からの両神山本峰